

# 会津地方と福島市山間地におけるリンゴ園の 訪花昆虫相はハチ目が優占している

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

## 1 部門名

果樹－リンゴ－その他

## 2 担当者名

吉田昂樹、中村傑、高岩和史

## 3 要旨

ミツバチ等のハチ目は受粉に貢献していることが知られているが、野生の訪花昆虫相を調査した事例は少ない。ミツバチ等の放飼及び人工受粉を行わない自然受粉のみの会津地方（2地点：水田地帯、山間地）と、ミツバチ等を放飼せず人工受粉を行っている福島市茂庭（山間地）の訪花昆虫相を比較した。その結果、捕獲数に違いはあるものの、いずれも野生のハチ目が優占していることが明らかとなった。

(1) 自然受粉のみの会津地方では山間地のリンゴ園でコウチュウ目の割合が高まるが、2地点ともハチ目が優占していた。

(2) 福島市茂庭は捕獲数が少ないが南会津町中荒井と同様の傾向を示した。

(3) いずれのリンゴ園もハチ目ヒメハナバチ科が多く捕獲されていた。このことから、人工受粉を行っている福島市茂庭でもハチ目による受粉の恩恵を受けていると推察された。

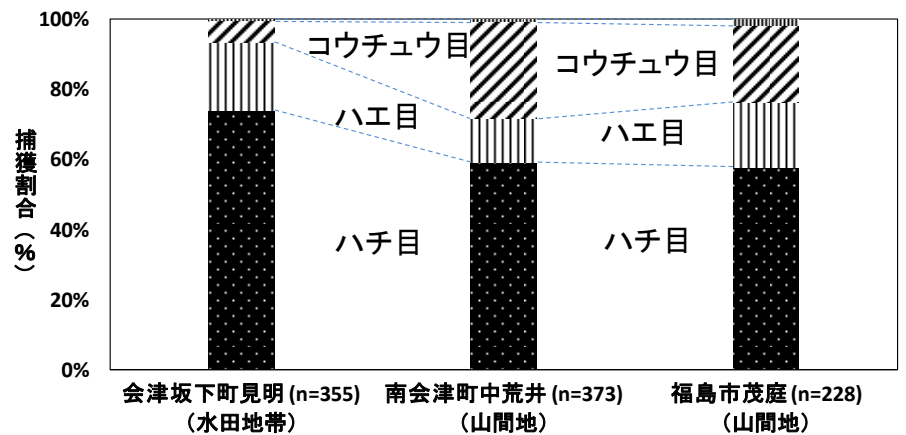


図 会津地方と福島市茂庭におけるリンゴ園の訪花昆虫相  
開花期の4日間について9:00-9:30、11:00-11:30、13:00-13:30、15:00-15:30、17:00-17:30の時間帯に花器上で採蜜行動等を行っている昆虫を捕虫網を用いて1人で採集した。

## 4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成29～令和3年度

(2) 研究課題名 果樹における生物資源を活用した環境調和型病害虫防除技術の開発

〔農林水産研究推進事業（うち農業における昆虫等の積極的利活用技術の開発プロジェクト）〕

## 5 主な参考文献・資料

(1) 吉田ら、「リンゴ園の訪花昆虫相は山間地で保全され、市街地ではハチ目が増加している」、令和元年度参考となる成果。